

大切な命

三年 平山夏蓮

私の家では、デイジーという名前の柴犬を飼っています。デイジーを迎え入れたのは、今から十年前のことです。それから長い間に一緒に過ごしてきて、今では私の良き相談相手です。嫌なことがあったときには、デイジーが優しく寄り添ってくれて、自然と心が落ち着きます。言葉で会話することはできないけれど、心では繋がっている感じがします。

しかし、そのようなデイジーも、最初はペットショップで売れ残っていた犬でした。

そこで、私は「もし私たちがデイジーを迎え入れていなかったら、どうなっていたのだろうか。」と思い、売れ残ったペットの行き先や対応について、インターネットで調べてみました。

すると、売れ残ったペットは、ブリーダーや関連業者へ返却され、再度繁殖に使われたり、劣悪な環境で飼育されたり、最悪の場合、殺処分されたりすることがあると知りました。その一方で、保護団体に引き渡したり、値下げして、販売の機会を増やしたりすることもあったと知りました。

私は、これらのことを知り、とても残念に思いました。同じ『売れ残り』という状況でも、その後の行き先や対応が異なるだけで、ペットたちの小さな命や幸せに大きな差が生まれているのです。そして、私たち人間が、動物たちの大切な命と幸せな生涯を奪っているのです。

私は、これから、この現状を少しでも改善していくために、二つのことに取り組もうと思います。

一つ目は、私たちが迎え入れた愛犬を責任を持って、最後まで大切に育てることです。そうすることで、互いの絆を深め、愛犬にとって安心できる環境が生まれると思います。

二つ目は、この現状を発信していくことです。SNSを使えば、簡単に多くの人に発信することができます。動物愛護について知ってもらうことができると思います。それでも、私一人の力では、現状を大きく変えることは難しいと思います。しかし、決して簡単ではない、大きな問題でも、多くの人の力があれば変えられると信じています。例えば、テレビやインターネットなどのメディアでも、もっとペットに関する問題を取り上げたり、学校で子供たちが、動物と関われる機会を増やしたりすることができると思います。

動物も人間も、同じ大切な命を持っています。私は、命の尊さが多くの人に伝わり、誰にとっても優しい社会が実現することを願っています。